

新聞記事に見る 徳島大学の 地域連携事業

2019年に創立70周年を迎える徳島大学は、野地澄晴学長のリーダーシップのもと、教育・研究・社会貢献という三本柱の強化を推進していく。



2018年から徳島県と一

徳島県知事の尽力により、内閣府の『地方大学・地域産業創生交付金』対象事業として採択。10年間にわたるビッグプロジェクトである。具体的には『LEDパレイ構想』で集積する地元

のLED関連企業と連携し

既存の大学院教育部の任り

緒に取り組んでいる『次世代「光」創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画』です。

同計画は

徳島大学が新設するポ

方を見直すほか、分野横断型クラウドファンディングやクラウドソーシングなども活用しながら、教育や研究で得られた成果を地域や国に還元していく。それが大学に課せられた使命の一つです」と野地学長は語った。

大学発“知の力”がつくる地域の未来

国立大学法人徳島大学 学長 野地 澄晴氏



徳島市新蔵町2丁目24番地 TEL.088-656-7000
http://www.tokushima-u.ac.jp

平成31年1月6日 [徳島新聞]

県内企業の魅力紹介

2019年11月に創立70周年を迎える徳島大は、記念事業の第1弾として県内企業や産学連携の取り組みなどを紹介する月刊誌「企業と大学」(A4判、64頁)を11月2日に創刊する。国立大が独自に雑誌を発行するのは全国で初めて。

創立70周年事業 第1弾



動きを牽ぐ『徳島経済TOPIX』をはじめとする多彩な記事を毎号掲載。県内ゆかりの市の小川裕義社長が「徳島から世界へ、NICHIAの挑戦」を語る。野地学長と県内企業と知ってもらう、地域を元気にしていく懸け橋となるような雑誌を自指す」と話している。

平成30年10月31日 [徳島新聞]

徳大が月刊誌創刊へ

企業を特集し、主な製 登場し、会社の足跡や 品や労働環境、社員 製造づくりへの意気込 献事業などを紹介する みをアゲにわたって紹 介している。

野地学長は「魅力あ る県内の企業について 知ってもらい、地域を 元気にしていく懸け 橋となるような雑誌 を自指す」と話してい

シカ肉加工品開発

ソーセージ・肉団子

県・徳島大ジビエ販売促進

徳島県が徳島大産肉類を原料としたソーセージと肉団子（ジビエ）の開発を推進している。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。

徳島県が徳島大産肉類を原料としたソーセージと肉団子（ジビエ）の開発を推進している。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。



県産肉類を原料としたソーセージと肉団子（ジビエ）の開発を推進している。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。

徳島県が徳島大産肉類を原料としたソーセージと肉団子（ジビエ）の開発を推進している。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。肉団子は和食に合い、ソーセージは洋食に合う。

次世代LED 開発推進

徳大、民間に設備開放

徳島県は22日、徳島大など連携して次世代のLED開発や応用研究に取り組む「地方大学・地域産業創生事業」の推進に向け、企業関係者を対象にしたフォーラムを徳島市の徳島グランヴィリオホテルで開催した。

このフォーラムは、徳島大のLED開発や応用研究に取り組む「地方大学・地域産業創生事業」の推進に向け、企業関係者を対象にしたフォーラムを徳島市の徳島グランヴィリオホテルで開催した。



県や徳島大が次世代LED開発などに取り組む「地方大学・地域産業創生事業」を紹介するフォーラム＝徳島市の徳島グランヴィリオホテル

LEDは省エネルギーの代表格として、近年、家庭や産業分野で広く利用されている。徳島大は、LEDの応用研究を進め、新たな光応用製品を開発している。徳島大は、LEDの応用研究を進め、新たな光応用製品を開発している。

LEDは省エネルギーの代表格として、近年、家庭や産業分野で広く利用されている。徳島大は、LEDの応用研究を進め、新たな光応用製品を開発している。徳島大は、LEDの応用研究を進め、新たな光応用製品を開発している。

平成31年1月23日【徳島新聞】

藍色の食で

世界発信

徳島大の教授と徳島県内の企業経営者が、食の安全と健康を重視し、藍色の色素を開発している。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

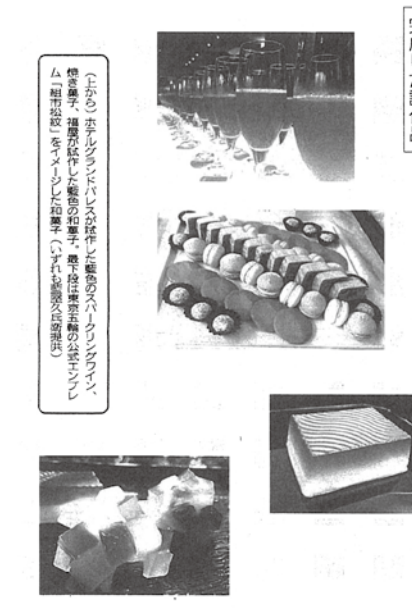
徳島大の教授と徳島県内の企業経営者が、食の安全と健康を重視し、藍色の色素を開発している。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

徳島大の教授と徳島県内の企業経営者が、食の安全と健康を重視し、藍色の色素を開発している。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

東京五輪公式エンブレム



ワインや和洋菓子 試作



藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。藍色の色素は、食品への使用を可能にした。

平成30年12月28日【徳島新聞】

LED 新技術開発へ

年度内県や徳大が研究所

徳島県、徳島大などが、LEDの新技術の開発を推進する「ボストLEDフォトリソグラフィ」を推進している。LEDの新技術の開発を推進する「ボストLEDフォトリソグラフィ」を推進している。

徳島県、徳島大などが、LEDの新技術の開発を推進する「ボストLEDフォトリソグラフィ」を推進している。LEDの新技術の開発を推進する「ボストLEDフォトリソグラフィ」を推進している。

光線性能評価分析装置など最新機材を導入し、徳大のほか、外部からこれらの分野で、徳大が日亜化学工業（阿南市）や、日本フネン（吉野川市）などLED製品を手掛ける県内企業と連携し、既存のLEDを用いた応用製品の開発も進める。光で腫瘍を識別できる内視鏡など、医療、農業といった分野にLEDの活用を拡大する。

光線性能評価分析装置など最新機材を導入し、徳大のほか、外部からこれらの分野で、徳大が日亜化学工業（阿南市）や、日本フネン（吉野川市）などLED製品を手掛ける県内企業と連携し、既存のLEDを用いた応用製品の開発も進める。光で腫瘍を識別できる内視鏡など、医療、農業といった分野にLEDの活用を拡大する。

平成30年10月20日【徳島新聞】

平成30年12月7日【徳島新聞（夕刊）】

公民連携の集客法学ぶ



徳島市で「まちごとファクトリー」の実践講座が開かれ、学生らと意見交換が行われた。

【徳島市】徳島市で「まちごとファクトリー」の実践講座が開かれ、学生らと意見交換が行われた。この講座は、まちごとファクトリーが主催する事業で、学生らと意見交換を行うことを目的としている。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

平成30年6月27日【徳島新聞】

起業への意識高める 学生ら経験者と意見交換



徳大で「まちごとファクトリー」の起業セミナーが開かれ、学生らと意見交換が行われた。

【徳島市】徳島大学で「まちごとファクトリー」の起業セミナーが開かれ、学生らと意見交換が行われた。このセミナーは、まちごとファクトリーが主催する事業で、学生らと意見交換を行うことを目的としている。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

平成30年5月27日【徳島新聞】



事業プランを発表する受講生。徳島市の徳島大常三島キャンパス。

多様な起業プラン発表

徳大で本年度最終セミナー

【徳島市】徳島大学で「まちごとファクトリー」の本年度最終セミナーが開かれ、学生らと意見交換が行われた。このセミナーは、まちごとファクトリーが主催する事業で、学生らと意見交換を行うことを目的としている。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

平成31年2月3日【徳島新聞】

起業のポイント学ぶ

【徳島市】徳島大学で「まちごとファクトリー」の起業セミナーが開かれ、学生らと意見交換が行われた。このセミナーは、まちごとファクトリーが主催する事業で、学生らと意見交換を行うことを目的としている。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

平成30年12月16日【徳島新聞】

地域活性化や 人材育成で連携

県内3大学 徳島JCと協定

【徳島市】徳島大学、四国大、徳島大と徳島青年会議所（JC）が、地域活性化や人材育成を目的として、連携協定を結んだ。この協定は、3大学とJCが共同で、地域の活性化や人材育成に取り組むことを目的としている。

平成30年12月12日【徳島新聞】

JR四国と4国立大連携 旅行ツアー 来月発売

【徳島市】JR四国は、徳島、香川、愛媛、高知の4国立大学と連携して、企画した四国の旅行商品8件を2月1日から順次、発売する。徳島大が提案した県内のツアー2件は6月の実施を予定している。

平成31年1月29日【徳島新聞】

徳大の2企画は6月実施

【徳島市】徳島大学は、2つの企画が6月に実施される。この企画は、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

【徳島市】徳島大学は、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。

平成30年8月11日【徳島新聞】

【徳島市】徳島大学は、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。また、まちごとファクトリーは、地域の活性化や人材育成を目的として、さまざまな事業を展開している。



徳島大の野地学長と四国財務局長の木勢局長とが、協定書にサインをした。

平成31年1月12日【徳島新聞】

夏休み子ども学び体験

夏休みの子どもたちが学びを深める催しが4日、県内各地で開かれた。参加者は実験で科学の魅力を体験したり、海辺で生き物を探したりして歓声を上げた。

実験や工作楽しむ

徳大で科学フェスティバル

実験や工作を通して科学の楽しさを学ぶ「科学体験フェスティバル」が徳島市の徳島大常三島キャンパスで始まった。入場無料。5日まで。県内の学校や企業などが46ブースを出展。ソートロープ(回転のぞき鏡)のブースでは、子どもたちが紙カップに切れ込みを入れ、中に絵を貼り付け

などを利用したアニメーションの原理を体験した。備光シートを使い、見えるのに触れない壁を作る「マジカルウォール」のコーナーなども人気を集めた。ソートロープを作った藍住西小4年の上原璃久君(9)は「一つ一つの絵は止まっているのに、動いたのが面白い」と話した。(佐藤隆香)



ソートロープを作って楽しむ子どもたち＝徳島市の徳島大常三島キャンパス

平成30年8月5日【徳島新聞】

徳島大地域創生センターは、小松島市民と一緒に暮らしに役立つ住民サービスを開発する「こまつしまリビングラボ(K.L.L.)」を14日に発足させる。隣接地に産直市が開設され4月末から空き施設となっているJ.A東とくしまの旧あいさい広場(同市立江町)を拠点に、サービスを提供する。

リビングラボ発足

小松島市の課題 市民と考える

市やJ.A東とくしま、農水関係、企業も参加。本年度は青田家らを抱いた講演会も先進地視察を行い、市の課題や必要な住民サービスを考える。2019年度に具体的な産業づくりと社会実験。20年度に取り組みの定着を図る。

徳島大など きょうキックオフ集会



キックオフ集会で田代教授がリビングラボの手法を学ぶ参加者。小松島市江町のあいさい広場。

平成30年6月14日【徳島新聞】

空き家を農業体験民宿に

徳島市北神田町東直力の移住立寄り会を結成した田代さん(41)が、空き家になった小松島市徳島町八日の実家で農業体験民宿を開業した。移住希望者に野営地などの農業体験をしながら「お試し滞在」をしてもらう。市内の空き家解消、移住促進、就業者確保のモデルケースを目指す。



田代さんがオープンした農業体験「ファンファム」＝小松島市徳島町八日

就業者確保を目指す。移住希望者は、徳島市北神田町東直力の田代さん(41)が、空き家になった小松島市徳島町八日の実家で農業体験民宿を開業した。移住希望者に野営地などの農業体験をしながら「お試し滞在」をしてもらう。市内の空き家解消、移住促進、就業者確保のモデルケースを目指す。

平成31年1月8日【徳島新聞】

平成30年8月27日【徳島新聞】

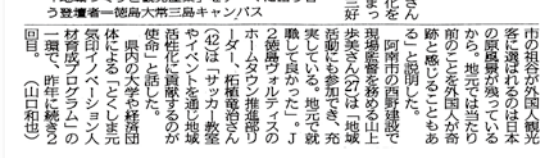
徳島大職員指導 電子楽器を製作 つるぎ町 徳島大学 院社会産業理工学部研究部総合技術センターの出前科学教室が、同町半田の半田公民館であり、児童24人が電子楽器作りを学んだ。センター職員が、空気などの振動で音が出る仕組みを説明。子どもたちは方眼紙にアルミテープを貼って電子回路を作り、スピーカーやトランジスタを付けてプ



アルミテープを貼って電子回路を作る児童＝つるぎ町の半田公民館

平成30年8月13日【徳島新聞】

徳島の魅力語り合う 県内本学高専 徳大で共同授業 徳島への魅力や働きやすさを語り合う。徳島市と高専の共同授業が、徳島市の会館AWAホールで行われた。徳島大と高専の共同授業として行われた。単位として認定される。大学・高専生をはじめ、高校生や職人が参加した。講師は、徳島の強みと成長産業、「地域医療と福祉の推進」などのテーマで、地域づくりや観光産業などと関係する。バネル博覧会に人が登



「地域づくりと観光産業」をテーマに語り合う数演者＝徳島大常三島キャンパス

